

浜松観光ボランティアガイドの会

同行ガイド 船越小学校「浜松城と徳川家康」

9月29日(木)浜松市立船越小学校6年生50名を対象に、徳川家康公ゆかりの地、浜松の歴史を学ぶ「浜松城と徳川家康」をテーマに校外学習の同行ガイドを行いました。

生徒たちは4グループに分かれ、それぞれ2名の事業部員が引率して8時50分に、集合地の〈浜松



雲立の楠の説明

八幡宮〉からスタートしました。家康公は浜松城の鬼門鎮守の氏神として度々参拝したといわれています。境内の史跡として、静岡県天然記念物に指定され家康公が武運を祈願したといわれる樹齢千年余のご神木の雲立の楠、浜松の名称の起源になったといわれるぎざんぎの松、松島十湖句碑「はま松は出世城なり初松魚」を見てさらに参道沿いの〈秋葉灯籠〉を見学しました。鎮守の森を出て交通安全を確認しながら〈椿姫観音〉へ向かい、六間道路に出てビジネス支援施設ドリーム館となっている〈ホンダ技研発祥の地〉、そして家康公が幾多の出陣の折、出入口とした〈玄黙口〉へと進みました。

次に〈元城町東照宮・引間城跡〉です。引間城は今川家支城でしたが、家康公が攻め込み入城後東へ勢力を伸ばす足掛かりとして領地を広げ浜松城(館)を築城、引間城の跡地には米蔵が建てられました。明治時代になってこの地に家康公を祀る東照宮が創建され其処ここに三つ葉葵の紋所が。



芝生広場で解散の挨拶

その先の路地を抜けた道路はクランク状で〈下垂口〉の標柱があり敵の進行を阻む工夫が見られます。浜松城内と城下町の境は天竜川西側の河岸段丘で、歴史を感じる崖の脇を通り当時の様子を垣間見る一瞬。次世代への貴重な遺構として管理が望まれます。そろそろ疲れはじめた生徒たちは随時の水分補給で頑張って歩きます。市役所と元元城小学校(大河ドラマ館建設中)の間を通り〈鉄門跡、鎧掛けの松、馬冷やしの池〉を見聞、浜松城公園内では浜松大空襲の戦火をくぐり抜けた〈プラタナスの木〉を見て触れて、その力強い生命力を感じた事でしょう。〈搦手門〉の辺りでは浜松城の基本的な石垣の野面積、算木積、城の防御力を高めていた屏風折れ、鉢巻き石垣等の説明を受けました。現在、天守閣は外装改修工事中でブルーシートに覆われています。

天守広場で生徒たちは〈天守閣〉組と〈天守門、富士見櫓〉組の2コースに分かれ15分ずつ交代で見学、天守閣では家康公愛用の甲冑、江戸時代の当世具足等の展示品や、右手を振り上げ今にも動き出しそうでリアルな31歳の家康公像、センサーが反応してバックに映像と物語が流れる家康公ステージ、地下の井戸等々を見聞しました。全ての見学が終わり、11時30分に中央芝生広場で浜松城での校外学習が終了、戸塚部長より「浜松城と徳川家康」のリーフレットが配布されました。生徒たちはそれぞれ



搦手門から天守台石垣の説明

ふるさと講座 東小学校「徳川家康と遠州大念仏」

9月29日(木)午後、東小学校ポプラホールにて4年生57名にふるさと講座を行いました。テーマは「徳川家康と遠州大念仏」です。社会科「残したい物、伝えたい物」の学習で、来る10月11日に浜松城を訪れる前に、事前講義を受けることで理解を深めることになると当会の提案で開催となりました。

戸塚事業部長の挨拶に続いて、事業部員の沼田司さん(西ブロック)が浜松城について説明しました。最初に犀ヶ崖資料館のDVDビデオの前半を上映して、家康についての理解を深めてもらいました。家康くんが登場することで、児童たちは熱心に観て、要所ではメモを取っていました。続いて浜松城の特徴、家康の3大危機、功績等を説明しました。天守地下の井戸や石垣に興味深い様子でした。

次に、春日事務局長から遠州大念仏について説明しました。私が7年前に撮影した「犀ヶ崖大念仏の夕べ」のビデオを上映して、遠州大念仏を色鮮やかな映像と音声で体感してもらいました。その後、9月に資料館に寄贈された本「あすかのたいこきり」を紹介しました。この本は浜北区の赤佐小学校で特別支援学級の児童が「こども大念仏」に懸命に取り組む物語です。



熱心に説明を聞く東小学校4年生の児童

「残したい物、伝えたい物」に「浜松城と大念仏」があることを感じてもらえたことと思います。尚、リーフレット「浜松城と徳川家康」は終了後に配布しました。資料を事前配布しないことは、児童に「聴いて理解する力を養う」目的があるようです。

戸塚事業部長は「遠州大念仏を見たことのある児童がいなかったことに驚いた」との感想を述べていました。講座は45分の短い時間でしたので、十分に説明できなかったのが残念でした。短時間でピンポイントでの話し方のスキルが必要と感じました。

西ブロック 春日康治

西ブロックミニ研修“隠れ 家康の散歩道” ウォーク

9月20日(火)午後、西ブロック月例会終了後に西ブロックのミニ研修会が行われました。今回は普段訪れることがない浜松城周辺の“隠れ家康散歩道”を参加者12名で散歩しました。

コースは浜松城公園駐車場⇒近藤康用屋敷推定地⇒善正寺⇒亀山神社⇒普濟寺(通過)⇒浄土寺⇒秋葉神社(通過)⇒菩提寺⇒法雲寺⇒高町公園⇒鉄砲屋敷跡⇒芳藪寺⇒元城町東照宮(通過)⇒家康公ご住居跡⇒じねん浜松城店⇒浜松城公園駐車場です。飯尾ブロック長の説明で約2時間かけて浜松城を一周しました。

今回訪問したお寺はそれぞれに歴史と特長があります。秋葉坂下交差点から普濟寺に向かう道路沿にある「浄土寺」にはメルヘンチックな「直政公の碑と虎松の像」があります。説明板によると「虎松(井伊直政)が4歳の時にこの浄土寺に逃げ、そこで出家し、今川氏が没落後に鳳来寺に移ったとする説もあります(江戸幕府公式文書・寛



浄土寺にて参加者一同



浄土寺の直政公の碑と虎松の像

政重諸家譜)。また、天正2年(1574年)虎松は鳳来寺からもどり、母の再婚先である松下源太郎宅に入り、浄土寺に出入りし2年ほど手習いを受けたという伝承が残っています(井伊家伝記)。」11月15日開催予定の研修部主催の現地研修「街ひがしを歩く史跡ウォーク」では頭陀寺、松下屋敷跡を訪問しますので、浄土寺との関連を学ぶことも興味深いものがあります。

浜松城周辺には普段訪れることない寺や古い道、廃墟のアパートなども数多くあり、メジャーな家康の散歩道の“隠れ”には知的好奇心をくすぐるものを発見できた有意義な研修会でした。

西ブロック 春日康治

同行ガイド 広沢小学校「軽便鉄道跡を巡る」

9月30日(金)の9時から10時半まで軽便鉄道跡を巡るコースとして、広沢小学校3年生30名引率教員1名保護者2名の皆さんを当会事業部員5名が対応しました。

最初は日本鉄道の歴史からです。明治時代の話でちょっと3年生では難しいかなと思いましたが、皆さんはしっかりと聴いてメモをしていました。それから亀山トンネルの中で、写真パネルの説明を聴きながら歩を進めました。この遊歩道が58年前までは”軽便鉄道奥山線”の線路道であって、大正3年(1914年)に開業し、翌年には板屋町～奥山間25.9キロ全線開通しました。昭和4年(1929年)までは蒸気機関車(愛称ラッキョウ軽便)、それからガソリンカー、昭和25年(1950年)からは東田町～曳馬野間が電化、続いて残りの区間をディーゼルカー化しましたが、昭和39年(1964年)に廃線となりました。子供たちはラッキョウが分からないらしく、野菜のエシャレットに当たるとか資料の写真を覚えてもらいました。それから遊歩道にラッキョウのモニュメントがあるので、そこでも説明をしました。子供たちに理解してもらうのは一苦労です。次は線路の幅です。東海道線の約1,060ミリ、新幹線の約1,430ミリに比べて762ミリとかなり狭く時速13kmとゆっくり走行で、馬力が無く登り坂になると学生が降りて押ししたり、スリップ防止のためスコップで線路に砂を置きながら走った話は有名です。通勤通学する人、奥山方広寺へ参拝する人、戦争中は和地山の練兵場に行く兵隊さんやその家族、浜松まつりの凧揚げ場(現在の和地山公園)に出掛ける人で賑わいました。このように庶民の足として、また、お茶・井草・みかん・野菜等も運び貨物車の役割もしました。



旧広沢駅で質問に答える事業部員

旧広沢駅のレリーフの前で、残りの質問事項にエピソードを交えて答えました。50年～100年前にタイムスリップした情景が浮かんでくれればうれしいです。

広報部 柳本幸子 (中ブロック)

同行ガイド 広沢小学校「浜松城と徳川家康」

9月30日(金)9時から10時30分まで広沢小学校3年生30名と教諭1名保護者6名で浜松城の校外学習が行われました。晴天に恵まれ一行は時間より早めに到着し、芝生広場に集合。ごあいさつの後、

まず事前に寄せられていた質問に飯尾西ブロック長から答えてもらいました。内容は①家康はどうして浜松城に来たのか②どんな暮らしをしていたのか③家康は何年前に浜松城に住み着いたのか④家康は浜松城をどのように使っていたのか⑤家康はどうやって家来を集めたのか⑥家康はなぜ強いのか⑦家康が戦争した場所は他にどこがあるか⑧家康が使っていたものは何か⑨家康の父母はどんな人なのか⑩家康の移動の仕方は?でした。個別の追加質問は歩いている中で各担当者に聞くように伝え、



天守閣を登る生徒達

飯尾ブロック長が準備した古地図を全員に配布し、3つの班に分かれて出発しました。

1班飯尾隊は玄黙口から東照宮→町変遷案内板→鎧掛け松→本丸→天守曲輪→天守閣。2班前原隊は東照宮→松・本丸→天守閣→天守曲輪→案内板。3班伊藤隊は天守閣・曲輪→本丸・松→案内板→東照宮のルートで廻りました。小学校3年生の体力に不安はありましたが、子供たちはとても元気で歩きながらも次々と湧いてくる質問を口にしていました。90分後、

再集合し「まだ気になっていることは?」を発表してもらおうと「門の小さな入り口は何?」「家康の好きな城はどんな城?」とまだまだ知りたいことが出てきました。学校で学習を深めてもらうよう小学生用のリーフレットを引率の先生に渡し、ガイドを終えました。



飯尾さん作成の古地図

広報部 前原福子 (西ブロック)

会員の交流広場

松本城のこんなところ知っていますか？



松本市役所展望台からの写真

私は、当会に入会して3年が経過しました。今回思い切って県民割を利用して妻と長野方面に観光旅行に出かけ、国宝松本城に立ち寄りました。コロナ過の中でガイド活動は休止され、松本城の案内は出来ないと聞かされがっかりしていたところ、松本城天守内を見学後に、偶然観光ガイドの方に出会い松本城のあまり知られていないスポットについて紹介していただきました。既に知っている方もいらっしゃるのかも知れませんが松本城の資料に載っていない内容とのことで、これから松本城にお出かけされる方にちょっとした楽しみ方が出来るのではないかと思います。あまり知られていない松本城のスポットを見つけてみたらいかがでしょうか。

【あまり知られていない松本城のスポット】

- ① 月見櫓の瓦に石川家の家紋である笹竜胴(ささりんどう)と戸田家の家紋である(はなれ六ツ星)が描かれた瓦があります。
 - ② 辰巳附櫓の瓦には、松本城の天守群の建物に1カ所しか設置されていない鬼瓦があります。
 - ③ 黒門の石垣には、戸田家の家紋が彫られた石が1カ所設置されています。
 - ④ 太鼓門の周りの石垣には、5つの干支<丑(うし)・卯(う)・酉(とり)・戌(いぬ)・亥(い)>に見える石垣が積んであります。
 - ⑤ 太鼓門の玄蕃石(げんぱんいし)は、松本城の石垣で最も重い22.5トンあり、見る角度によってモアイ像に見えます。
- 「この石はイースター島から運んできたんです」と冗談交じりに説明を受けました。
- ⑥ 松本市役所の展望台に上がると、天守の高さ29.4mと同じ高さの位置から撮影ができ、松本城の撮影ポイントになっています。(休祝日は展望台に行けないので注意してくださいのこと)



月見櫓の家紋入り瓦

東ブロック 杉山太一

9月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター(浜松駅構内)」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

6日 火	富岡創生協議会(磐田市)	19名
10日 土	阪急交通社広島支店	27名
29日 木	浜松市立船越小学校	50名
30日 金	浜松市立広沢小学校	37名
30日 金	浜松市立可美小学校	135名

《犀ヶ崖資料館》

6日 火 富岡創生協議会(磐田市) 19名

《浜松まつり会館》

27日 火 浜松市立和田東小学校 57名
29日 木 浜松市立船越小学校 50名

はままつ案内人会報 243号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会
〒430-0946 浜松市中区元城町100-2 (浜松城内)
TEL&FAX 053-456-1303
メールアドレス mail@hama-svg.jp
ホームページ http://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人

検索



家康公ゆかりの地